



## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、『スパークス・少数精鋭・日本株ファンド』は、このたび、第10期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド受益証券を通じて、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュエギャップ)している日本企業を中心に20~40社程度に集中投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

### < お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社  
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス  
リテール・ビジネス・デベロップメント部

電話：03-6711-9200(代表)

受付時間：営業日の9時~17時

ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

### < 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「スパークスの投資信託」より「投資信託一覧」の当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

# 交付運用報告書

## スパークス・少数精鋭・ 日本株ファンド

追加型投信／国内／株式

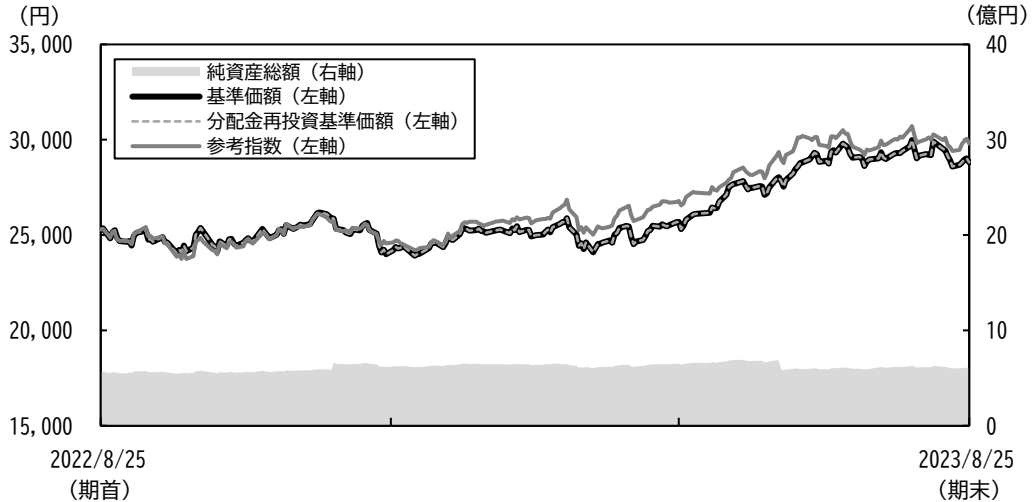
第10期(決算日 2023年8月25日)  
作成対象期間(2022年8月26日~2023年8月25日)

第10期末 (2023年8月25日)	
基準価額	28,814円
純資産総額	603百万円
第10期 (2022年8月26日~2023年8月25日)	
騰落率	13.9%
分配金合計	0円

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移 (2022年8月26日～2023年8月25日)



第10期首： 25,288 円

第10期末： 28,814 円(既払分配金0円)

騰 落 率： 13.9%(分配金再投資ベース)

- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。
- ※ 参考指数は期首(2022年8月25日)の基準価額に合わせて指数化しております。

## ■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)への投資を通じて、日本の株式に投資をしております。

マザーファンドは、ボトムアップ・リサーチを通じて、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュウギャップ)していると判断される銘柄に絞り込んで投資をしました。当期は、ファインセラミックスメーカーや、特殊黒鉛メーカーなどが業績を大きく拡大し、株式市場に好感されました。一方で、アウトバウンドのコールセンター運営企業や、トレーディングカードゲームなどを提供する企業などの株価が、業績動向が株式市場の期待を下回ったため下落しました。当期の基準価額は市場全体を下回る結果となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細

項 目	当期 2022年8月26日～2023年8月25日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社)	530円 ( 287)	2.035% ( 1.102)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(販 売 会 社)	( 229)	( 0.879)	
(受 託 会 社)	( 14)	( 0.054)	
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	13 ( 13)	0.050 ( 0.050)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・有価証券等を売買する際に発生する費用
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用)	28 ( 3)	0.108 ( 0.012)	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・法定書類等の作成、印刷費用 ・信託事務の処理等に関するその他の諸費用
(印 刷 費 用)	( 25)	( 0.096)	
(そ の 他)	( 0)	( 0.000)	
合 計	571	2.193	

期中の平均基準価額は26,052円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

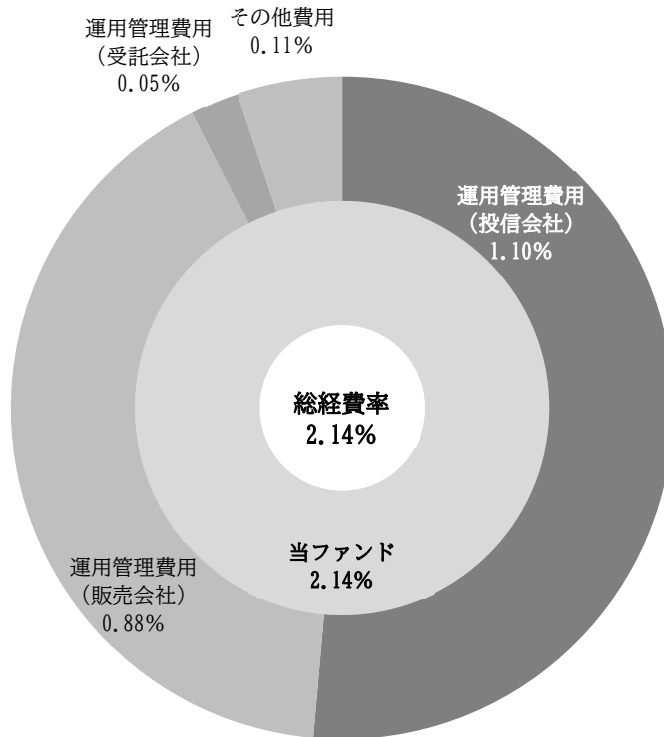
(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.14%です。



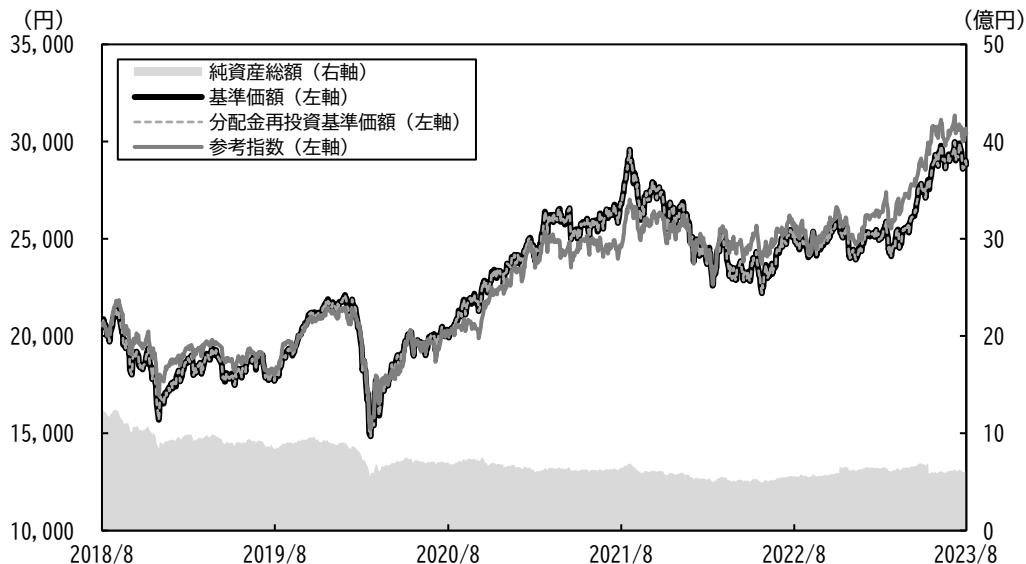
(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移 (2018年8月27日～2023年8月25日)



- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 参考指数は2018年8月27日の基準価額に合わせて指数化しております。

	2018/8/27 決算日	2019/8/26 決算日	2020/8/25 決算日	2021/8/25 決算日	2022/8/25 決算日	2023/8/25 決算日
基準価額 (円)	20,536	17,685	20,320	26,751	25,288	28,814
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△13.9	14.9	31.6	△ 5.5	13.9
参考指数騰落率 (%)	—	△12.5	12.8	21.7	4.6	17.8
純資産総額 (百万円)	1,201	835	703	640	560	603

- ※ 参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。  
参考指数の詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## ■ 投資環境

当期の日本株式市場は、欧米のインフレ高進や米国の金融引締めなどを背景に、海外景気の先行き懸念が強まり、下落基調で始まりました。その後、米国の金融引締めペース鈍化への期待から上昇に転じましたが、2022年末にかけ欧米の景気後退懸念が高まり、米国株安の流れを受け下落へ転じました。更に日銀が長期金利の許容変動幅を修正したことも日本株式市場の下落に影響しました。

2023年に入ると、米国のインフレ鈍化への期待が高まったほか、中国のゼロコロナ政策の解除が好感され、上昇基調に転じました。3月にはシリコンバレー銀行(米国)の破綻に端を発した欧米金融不安の急拡大を受け、リスク回避姿勢が強まったことから世界的に株式市場が急落しました。その後、UBSのクレディスイス買収や、各国・地域の政府・中央銀行の迅速な対応から金融システムへの不安が和らぎ、値を戻す展開となりました。日本のデフレ脱却期待や、東証によるPBR(株価純資産倍率)1倍割れ是正への議論などから、外国人による日本株買いが継続し、上昇基調を強めました。

期末にかけては、米国のインフレ鈍化が好感された一方、日銀のYCC(イールドカーブ・コントロール)の柔軟化や格付け会社フィッチによる米国債の格下げが嫌気されたことを受け、日本株式市場は一進一退の展開となりましたが、期初を上回る水準で当期を終えました。

## ■ ポートフォリオ

### < スパークス・少数精鋭・日本株ファンド >

当ファンドは、主としてマザーファンドを通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本としています。マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。

### < スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド >

マザーファンドではボトムアップ・リサーチに基づき、逆張りの発想で、徹底した調査から、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュエギャップ)している企業を中心に投資を行いました。

当期中に新規に組入れた主な銘柄は、

- ① 市場参加者が注目していないために株価が割安に放置されていた銘柄  
具体的には、放送事業を展開するテレビ東京ホールディングス、トレーディングカードゲームを中心に事業展開しているブシロードなどが挙げられます。
- ② 短期的な業績不振など、市場に嫌気される要因があって割安に放置されていた銘柄  
具体的には、低価格ドリンクを製造販売するライフドリンク カンパニー、大手菓子メーカーである江崎グリコ、マテリアルハンドリング機器メーカー大手のダイフク、などが挙げられます。

一方、売却した銘柄には

- ① よりアップサイドが狙える企業へ入れ替えた銘柄  
 具体的には、ソルダーレジスト大手である太陽ホールディングス、インターネット広告事業を展開するアイティメディア、産業ガス大手の日本酸素ホールディングスなどが挙げられます。
- ② 当初想定していたような業績拡大が見られなかった銘柄  
 具体的には、アウトバウンドのコールセンターを運営するダイレクトマーケティングミックス、特殊化学メーカーの日本化学工業、人工関節メーカーの日本エム・ディ・エムなどが挙げられます。

### (主なプラス要因)

当期のパフォーマンスにプラスに寄与した主な銘柄は、MARUWA、東洋炭素などです。

MARUWAは、セラミック加工技術を軸にした、電子機器向け素材・部品メーカーです。ニッチな分野ですが高い世界シェアを持っています。当ファンドでは、自動車の電装化を筆頭に、様々な電子機器における放熱需要の増大に伴い、同社の売上拡大を期待し投資しております。当期、同社の株価はファンドのパフォーマンスに対してプラスに貢献しました。世界的に電気自動車の普及が加速していること、デジタル化の推進でデータセンターなどの投資が増加していることを背景に、同社の業績は拡大基調にあります。2023年は、世界的に半導体業界が調整局面に入っており、同社業績も足踏み状態ですが、当ファンドでは、MARUWAは中長期で成長が続くと判断しており、投資を継続する予定です。

東洋炭素は特殊黒鉛製品の世界的大手メーカーです。当ファンドでは同社の特殊黒鉛製品が、パワーデバイス、半導体向けで成長すると期待し投資しています。同社が注力しているパワーデバイス、半導体業界向けでは、特殊黒鉛製品に求められる品質基準が格段に上がることから、同社のような上位メーカーの優位性が続くと思われます。当期、東洋炭素の株価はファンドのパフォーマンスにプラスに寄与しました。世界的に電気自動車が普及するに従い、パワーデバイスであるSiC(シリコンカーバイド)が拡大しており、同社業績の追い風となっています。2023年に起きている半導体需給の変調には注意が必要ですが、同社製品は定期的に置き換えが必要な消耗品に近い製品であることから、中期的に半導体の生産拡大が期待できる限り、業績を牽引してくれると思われます。

## (主なマイナス要因)

当期のパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄はダイレクトマーケティングミックス、ブシロードなどです。

ダイレクトマーケティングミックスは、アウトバウンドコールによる営業支援の会社です。具体例を挙げると、通信会社からマーケティング支援を受託した場合、通信会社の現在のユーザー、または過去にユーザーだったなど、何かしらの接点を持った人たちに電話をし、適切な料金プランへの切り替えや、各種のオプションの提案、ユーザーの掘り起こしなどを行います。当ファンドでは、コロナ禍を経て企業の営業活動が対面から非対面に切り替わりつつあることから、同社の成長が加速すると期待し投資しておりました。当期、同社株価はファンドのパフォーマンスにマイナスに影響しました。足元の業績動向は、当ファンドの期待を下回って推移しております。新型コロナウイルスワクチン接種の特需の反動が出ていることに加え、主要顧客であった携帯電話大手企業のマーケティング戦略の変更が影響しています。目先、同社業績が当ファンドの期待に近づく可能性は低いと判断し、当期に保有株式を全て売却しました。

ブシロードは、アニメを中心とした自社・他社IP(知的財産)を幅広く展開する会社です。中心はトレーディングカードゲームですが、モバイル・コンソールゲーム、音楽、グッズ販売などにも展開しています。当ファンドでは、同社のトレーディングカードゲームが国内外ともに成長すると期待し投資しています。当期、同社株価はファンドのパフォーマンスにマイナスに影響しました。2023年8月中旬に発表された、2023年6月期本決算は会社計画通りの内容でありサプライズはありませんでした。しかし、同時に発表された2024年6月期業績予想では、営業利益が前年比-40.9%の減益となることが示され、株式市場に嫌気されました。減益予想の背景は、市場が拡大しているトレーディングカードゲーム向けの各種イベントなどの販促コストの増加、およびコンソール向けゲームソフトの開発費の増加などが背景です。当ファンドでは、今期の減益は将来に向けた先行投資であると判断しており、今後同社はトレーディングカードゲームを軸に拡大が続くと判断しています。



〔 組入上位10銘柄 〕

前期末(2022年8月25日)

	銘柄名	比率(%)
1	MARUWA	9.0
2	マックス	5.0
3	ダイレクトマーケティングミックス	4.8
4	クミアイ化学工業	4.2
5	トーセイ	4.0
6	全国保証	3.6
7	太陽ホールディングス	3.6
8	フジミインコーポレーテッド	3.5
9	ニチハ	3.4
10	京成電鉄	3.3

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

当期末(2023年8月25日)

	銘柄名	比率(%)
1	MARUWA	9.2
2	東洋炭素	6.3
3	マックス	5.4
4	京成電鉄	5.3
5	トーセイ	4.6
6	メック	3.8
7	クミアイ化学工業	3.4
8	フジミインコーポレーテッド	3.4
9	ニチハ	3.3
10	全国保証	3.2

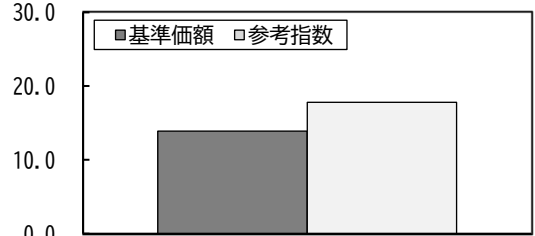
※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)



■ ベンチマークとの差異

- ※ 当ファンドはベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ※ 参考指数は、「TOPIX(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)  
(%)



第10期  
(2022/8/26 ~ 2023/8/25)

(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

## ■ 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向等を勘案して、分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

### 〔 分配原資の内訳 〕

(単位：円 1万口当たり・税込み)

項 目	第10期 (2022年8月26日～ 2023年8月25日)
当期分配金 (対基準価額比率)	— ( —%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	18,813

(注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注2) 該当欄に数値がない場合は「—」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。

(注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

### < スパークス・少数精鋭・日本株ファンド >

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。

### < スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド >

主要先進国の金融政策の方向性によって、世界的にバリュー株(割安株)が良いのか、グロース株(成長株)が良いのか、という議論が起きています。しかし当ファンドでは、PERやPBRといった株価指標を基準に分類される、バリューやグロースという分類は、投資の本質を示していないと考えています。より重要なのは株価指標の裏付となる企業収益です。投資において、株価の割安性は、企業収益の成長性とセットで考えられるべきだと考えます。当ファンドでは、中長期的な企業業績を軸に、投資魅力のある企業を発掘していきたいと思っております。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## お知らせ

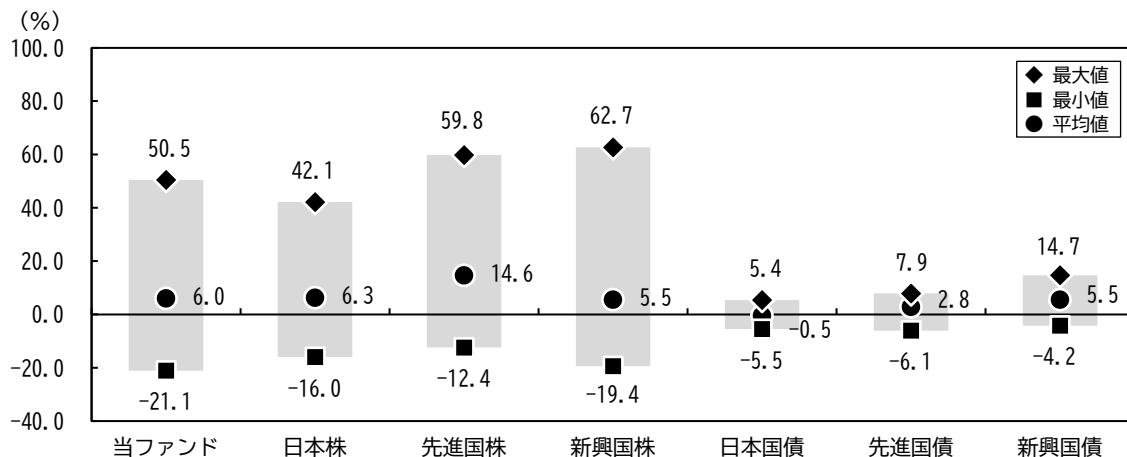
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	2013年8月30日から2033年8月25日まで	
運 用 方 針	信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行うことを基本とします。	
主 要 投 資 対 象	当ファンド	スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド	金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	主としてスパークス・少数精鋭・日本株マザーファンドへの投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、ベンチマークや業種にとらわれず、市場価値と独自の分析に基づく本質的な価値との乖離(以下「バリュウギャップ」といいます。)が大きく、魅力的と判断した中小型株式銘柄群を中心に、20銘柄から40銘柄程度に集中投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して、積極的な運用を行います。 また、株式市場の状況によって、大型銘柄により多くの投資機会があると判断される場合には、大型株式銘柄にも積極投資します。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。	

(参考情報)

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2018年8月末～2023年7月末)



(注1) 2018年8月～2023年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注2) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注3) 当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注4) 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

\* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

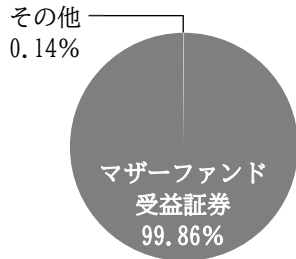
## 当ファンドのデータ

### ■ 組入資産の内容 (2023年8月25日現在)

#### < 組入ファンド >

ファンド名	第10期末
スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド	99.86%
組入銘柄数	1ファンド

#### < 資産別配分 >



#### < 国別配分 >



#### < 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

### ■ 純資産等

項 目	第10期末 2023年8月25日
純資産総額	603,493,547円
受益権総口数	209,444,702口
1万口当たり基準価額	28,814円

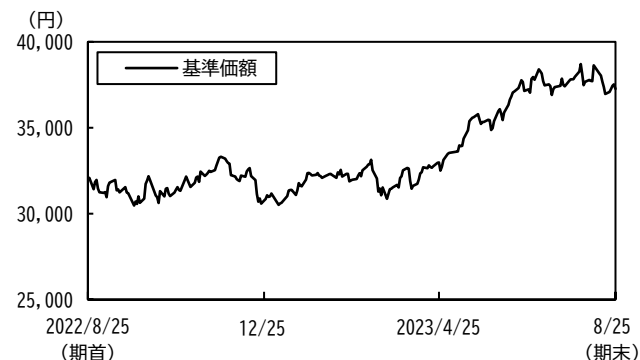
(注) 当期中における追加設定元本額は56,013,999円、同解約元本額は68,299,369円です。

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容

【スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド】（2023年8月25日現在）

< 基準価額の推移 >

（2022年8月26日～2023年8月25日）



< 組入上位10銘柄 >

	銘柄名	業種	比率(%)
1	MARUWA	ガラス・土石製品	9.2
2	東洋炭素	ガラス・土石製品	6.3
3	マックス	機械	5.4
4	京成電鉄	陸運業	5.3
5	トーセイ	不動産業	4.6
6	メック	化学	3.8
7	クミアイ化学工業	化学	3.4
8	フジミンコーポレーテッド	ガラス・土石製品	3.4
9	ニチハ	ガラス・土石製品	3.3
10	全国保証	その他金融業	3.2
組入銘柄数		32銘柄	

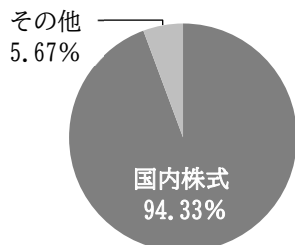
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

項目	当期 2022年8月26日～2023年8月25日	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	17円 ( 17)	0.051% ( 0.051)
(b) その他費用 (その他)	0 ( 0)	0.000 ( 0.000)
合計	17	0.051

期中の平均基準価額は33,317円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2023年8月25日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国を表示しています。

## 指数に関して

### < 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

#### 日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXは、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社(以下「J P X」といいます。)の知的財産であり、J P XはTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

#### 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

#### 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

#### 日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、NFRCおよびその許諾者に帰属します。NFRCは、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

#### 先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

#### 新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。